

# 学習指導案の形式（例） 小学校音楽科

## 第○学年○組 音楽科 学習指導案

平成○年○月○日（○） 第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

### 1 題材名 ○○○○○○○○

◇内容との関連をもたせ、その題材で何をどうするのが分かるように実現するねらいを考慮し、工夫する。

### 2 題材の目標

- 「音楽への関心・意欲・態度」に関する目標（例：～をしようとする。）
- 「音楽表現の創意工夫」に関する目標（例：～を工夫する。）
- 「音楽表現の技能」に関する目標（例：～を演奏する。）
- 「鑑賞の能力」に関する目標（例：～を味わって聴くようにする。）

◇学習指導要領で示された学年の目標及び内容を踏まえ、児童の実態などを基に設定する。  
 ◇四つの観点は明確な具体目標として捉える。  
 ◇目標は、実現状況を示す評価規準となるので、適切な評価ができるよう精選し簡潔に書く。  
 ◇〔共通事項〕の内容に関する部分の書体を変えたり、下線を引いたりするなどして強調する。  
 ◇児童の立場で書く。

### 3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
例：～を進んで取り組もうとしている。	例：～を工夫し、～について意図をもっている。	例：～を歌ったり演奏したりしている。	例：～を理解し、味わって聴いている。

◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 音楽】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）等を参考にして、適切に設定することが望ましい。  
 ◇1内容で1題材を構成する場合は、それぞれの内容に対応した「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にしながら、学習対象や学習活動に応じて組み合わせたり、融合したりして「題材の評価規準」や「学習活動における評価規準」を設定する。  
 ◇複数内容で1題材を構成する場合は、それぞれの内容に対応した「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にしながら、学習対象や学習活動に応じて組み合わせたり、融合したりして「題材の評価規準」や「学習活動における評価規準」を設定する。  
 ◇児童の立場で書く。

### 4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	創	技	鑑	
一	1	○主な学習活動	○				○評価規準（評価方法）
	2	◇児童の立場で簡潔に書く。 ◇想定される思いや見方や考え方		○			◇学習活動に応じて、4観点で評価規準を設定する。評価場面や評価方法を想定し適切に位置付ける。 ◇一つの観点についてある程度長い区切りの中で評価することも考えられる。 ◇児童の立場で書く。
二	1	◇評価規準を児童の姿として具体化していく際には、評価規準を適切に機能させるために必要な児童の姿や評価方法を想定することが重要であり、その数にこだわる必要はない。					

5 指導上の立場

- 題材観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇ 指導者の立場で書く。

- ◇ 題材観・・・題材の内容、よさ、既習事項との関連、今後の展開、発達段階において本題材を取り上げる意義、本題材を通して育てたい資質や能力
- ◇ 児童観・・・題材の目標に対しての実態、本題材で育てたい望ましい児童像
- ◇ 指導観・・・指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項
- ◇ 研究主題との関連・・・研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説を明確にして書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇ 題材の指導計画に即して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
- ◇ 題材の目標や評価規準との整合を図る。
- ◇ 児童の立場で書く。

例：～により、～することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>1</p> <p>◇ 児童の立場で書く。</p>	<p>○ ◇ 学習活動に対して主となる指導・支援を書く。</p> <p>◇ 指導者の立場で書く。</p>	<p>◇ 児童の立場で書く。</p>
<p>2</p> <p>◇ 活動に順序性がある場合には、(1)(2)で書く。</p>	<p>めあて</p> <p>○ ◇ 児童の目的意識のまとめや活動目標など、本時のめあてを示す。</p> <p>◇ 本時で何をどのように学ぶかの見通しがもてるようにする。</p> <p>○ 例：～することで、～できるようにする。</p>	<p>◇ 本時の目標との整合を図る。評価の場面は1、2か所。</p> <p>◇ 評価規準を具体的に書く。</p> <p>◇ 評価の観点や方法を書く。</p> <p>[評価の観点] (評価方法)</p> <p>・ 発言の内容</p> <p>・ 行動の観察</p> <p>・ ワークシートの記述</p> <p>・ 感想文</p> <p>・ 実技 等</p>
<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>◇ 導入・展開・終末の学習過程に沿って児童の学習活動を書く。</p> <p>◇ 一人一人の児童が何をめあてに活動すればよいのかをつかめるように具体的に書く。</p> <p>◇ 岡山型学習指導のスタンダードの単位時間の授業5(ファイブ)を参考にする。</p>	<p>○ ◇ 学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予想される児童の反応</li> <li>・ 児童一人一人の学習進度に応じた手だて</li> <li>・ 児童が主体的に、学習を進めるための手だて</li> <li>・ 資料提示の機会や方法</li> <li>・ 効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等</li> </ul> <p>◇ 学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>○ 例：～を一緒に確認することで、～できるようにする。</p> <p>◇ 「努力を要する」状況(C)と判断される場合における児童への手だての例を示す。</p> <p>◇ 「十分満足できる」状況(A)となるようにするための児童への手だての例を示す。</p>	<p>○ 例：～をしている</p> <p>[評価の観点] (評価方法)</p>
<p>3</p> <p>4</p> <p>5</p>	<p>まとめ</p> <p>◇ 本時に何を学んだのかが分かるように整理し、めあてと対応したまとめの文章表現の例を示す。</p> <p>◇ まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置付ける。</p>	

◎ 「おおむね満足できる」状況(B)と判断する児童の姿の例

◇ 本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿を具体的に書く。